

第3回 小田川付替事業環境影響評価技術検討委員会 (議事要旨)

開催日時：平成24年7月6日(金) 14:00～15:30

場 所：倉敷市民会館 2階 大会議室

出席委員：

内田 和子(元岡山大学大学院 社会文化科学研究科 教授)

奥島 雄一(倉敷市立自然史博物館 学芸員)

河原 長美(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)

笹岡 英司(元岡山大学大学院 環境学研究科 教授)

佐藤 國康(元川崎医科大学 教授)

(欠席) 西垣 誠(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)

波田 善夫(岡山理科大学 学長)

丸山 健司(日本野鳥の会 岡山県支部 支部長)

8名中 7名出席 1名欠席

議事要旨：

1. 委員会の成立について

- ・委員会規約第5条の2に基づき、出席者数が8名中7名であることから、委員会が成立していることを確認した。

2. スケジュールについて

- ・小田川付替事業の環境影響評価手続きの概略スケジュールについて、事務局から説明があった。

3. 環境影響評価項目、調査・予測及び評価の手法の選定

- ・方法書に対する知事意見の内容及び事業者の見解(案)について、事務局から説明があった。
- ・知事意見を勘案し、「環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」を選定し、方法書から変更はないことについて、事務局から説明があった。

委員長：方法書に対する知事意見への事業者の見解(案)、環境影響評価の項目・手法、の2点について了承されるか。

委員：了承する。

4. 環境影響評価に係る現地調査結果の概要

・環境影響評価に係る現地調査結果の概要についての説明を事務局が行い、以下の質疑及び助言がなされた。

【大気質（粉じん等）について】

委員：粉じん等について、風向・風速のデータを用いて予測を行っていくが、粉じん等の現況データが観測されていないようであるが、現在の状況からどの程度変化するかという評価はどのように行うのか。

事務局：粉じん等の評価については、降下ばいじんの評価の参考値である 20 t /km²/月と、全国の観測データを対象に値が比較的高い地域における降下ばいじんの値 10 t /km²/月との差をとり、降下ばいじんの工事による寄与量の参考値として 10 t /km²/月を設定している。従って、事業により発生する粉じん等の量が 10 t /km²/月以下かどうかを予測・評価することとなるため、各集落における現状の把握は行っていない。

【水質・底質について】

委員：柳井原貯水池の底質には砒素・鉛が含まれているが、測定値の幅が大きい。既往調査結果と比較して現在もその状況に変化はないか。資料掲載の最高値は、既往のデータか。

事務局：今年の6月に柳井原貯水池の5箇所において調査を実施したが、既往の調査結果の範囲内であり、以前より高くなるような状況ではない。資料掲載の最高値は、既往のデータである。

【生態系（上位性）について】

委員：サギ類のねぐらの写真が掲載されているが、このねぐらはどこにあるか。

事務局：写真で示したサギ類のねぐらは、小田川の南山上流の河畔林である。（参考資料3 垂直写真を示し説明）

【生態系（典型性）について】

委員：生態系（典型性の移動性）の注目種等として想定される種としてウナギが挙がっているが、ウナギは近年、個体数が減少している。減少している理由については分かるか。

事務局：ウナギの減少の理由については、不明であるため出来る範囲で確認させていただく。なお、ウナギは個体数が少ないため確認頻度が低くなることから、注目種等には選定していない。

委員：付替え河道にかかる橋の形状は決まっているのか。

事務局：橋は、現在の下流締切堤の部分に設置する計画であるが、形状までは決まっていない。

委員：八幡山に生息するタヌキの移動について、締切堤では接続することになるが、タヌキが新しい橋を利用するとは考えにくいいため、留意が必要である。

事務局：予測において、ご指摘の点に留意して検討する

委員：本事業完成後は自動車交通量は増大するのか。

事務局：本事業による自動車交通量の増大は想定していない。倉敷市が施工している
橋梁（都市計画道路 高砂町中島柳井原線 渡河橋梁）完成により交通量は増大する
可能性はある。

【工事の実施について】

委員：小田川付替事業は、夜間工事はないか。

事務局：夜間工事は予定していない。

【まとめ】

委員長：事業者の調査実施状況（調査項目及び期間）調査結果の概要を確認の上、
このデータにより準備書を作成していくということでした承されるか。

委員：了承する。

以 上